

2016年11月28日 日本テレビ 定例記者会見

《 要旨 》

＜発表＞

・ 映画「海賊とよばれた男」公開

12月10日から日本テレビの幹事作品で、岡田准一さんが主演を務める「海賊とよばれた男」が上映される。非常にいい映画になっているので、ぜひ劇場に足を運んでいただきたい。

・「世界の果てまでイッテ Q！」10周年

世界の果てまでイッテ Q！が放送10周年を迎える。汐留の日本テレビでは12月4日から25日までクリスマスツリーを設置する。カレンダーや10周年の記念DVDも発売する。

1. 視聴率動向と編成戦略

・ 視聴率データ

先週は21週連続の三冠王で、これは日本テレビの新記録。また全日の視聴率1位も155週連続で、記録の更新中である。月間三冠王は36カ月連続となった。

年間で44回目、年度で32回目の三冠王獲得回数は、昨年より好成績であるが、視聴率の数字 자체は昨年より少し下がっている。10月に入ってからの視聴率は前年同期を上回り、回復してきている。HUTが少し下がる傾向はあるものの、週間視聴率三冠王を獲得し、2位の局と1%以上の差を付けていることから、視聴者の支持をいただいていると思う。他局も良い番組を作っているので、私たちもさらに支持される番組を作っていくたい。

2. 営業状況

・ 放送収入

10月の放送収入は、タイム、スポットともに前年を上回り、引き続き堅調に推移している。東京はエリア投下率も100%を超えており順調。

・ 放送外収入

映画は現在公開中の「デスノート Light up the NEW world」が公開から 30 日を経過し、リクープラインを越えた。入場者数も 160 万人に迫っている。

また「マリー・アントワネット展」は現在開催中だが、平日の来場者数も増え、本日 10 万人のセレモニーを行う予定だ。「ダリ展」も先週来場者 30 万人を突破しており、美術展もおおむね順調だ。

海外事業では、トルコでリメイクされた日本テレビのドラマ「Mother」(現地タイトル「ANNE(アンネ)」)の放送が 10 月 25 日から始まった。現地で視聴率が 1 位になるなど非常に好調だと聞いている。こうしたフォーマット販売等、番組販売以外の海外事業にも力を入れていきたい。海外事業で今一番大きいのは、東南アジアで展開している「GEM」を拡大させるセールスだ。日本テレビも現地でイベントをするなど「GEM」PR している。

3. その他

・タイムシフト視聴とリアルタイム視聴

タイムシフト視聴率が発表されるようになってから間もなく 2 カ月が経過する。タイムシフト視聴ではドラマがよく見られている傾向を改めて実感した。ドラマの制作を非常に勇気づけたと思っている。しっかり傾向を把握し、番組づくりに生かしていく必要があると思う。民放放送事業者としては、この実績をスポンサーのみなさんに、理解していただき、CM 出稿につなげていただければ非常にありがたい。

・インターネット同時配信に関して

11 月 22 日早朝の福島沖地震に際しては「日テレ NEWS24」を放送し、同時に、YouTube の日本テレビ公式チャンネル、LINE LIVE、ニコニコ生放送等でインターネット配信した。

・2016 年を振り返って

今年は国内に自然災害の大きなニュースがあった。熊本地震があり、9 月には北海道、東北が大きな水害に見舞われた。そういったことに的確に報道機関として対応できたのか、放送できたのかということが振り返ってみて一番大きな印象に残ったことだった。

熊本地震が発生した際は、東日本大震災の経験もあったので、そこで得た教訓を生かして報道機関として迅速、正確に必要な情報を届けるために現場が努力した。インターネットを通じて「日テレ NEWS24」を同時配信するといったことにも積極的に取り組んだ。報道以外にも、私たちは 24 時間テレビで直ちに募金活動を開始するなど、被災地支援に取り組んだ。

自然災害以外では非常に大きな政治的出来事も内外にあった。日本国内では参議院選挙やサミットが行われた。オバマ大統領がアメリカの大統領として初めて原爆の被災地である広島を訪れたことも大きなニュースだった。

海外ではイギリスの EU 異脱という国民投票の結果が大きな衝撃となって、私たちにも伝わってきたし、アメリカではトランプ氏が大統領候補として当選したことも非常に大きなニュースだった。

こういった内外の大きなニュースに対して、報道機関としての責任をしっかりと果たしていく、その大事さを改めて痛感させられた 1 年だったと思っている。

日本テレビの一年を振り返れば、私たちの一番大きな商品である番組がきちんと視聴者に支持され、またスポンサーのみなさんにも支持していただいた。視聴率三冠王をここまで続けてこられたということは、非常にありがたいことだと思っている。事業では「ドラゴンクエスト ライブスペクタクルツアー」という日本初のアリーナショーにも取り組んだ。

それ以外ではやはりテレビをめぐる環境の変化が一段と加速化しているなということを実感した 1 年でもあった。まず 4K の BS 放送に乗り出すことを決め、申請した。認可がおりれば BS で事業を始めることになる。これは新しいチャンネルをもうひとつ持つということなので、それに合わせてハード、ソフト両面で大きな投資が必要になる。地上デジタル化後の放送事業としては最も大きな節目になると思う。

さらにインターネット環境の進化により、テレビにも非常に大きな影響があった。私たちも Hulu という SVOD (定額制動画配信) 事業を始めているが、海外からは Netflix、アマゾンなども参入し、またテレビ朝日とサイバーエージェントが取り組む AbemaTV のように広告付き無料配信という形での新しい試みも始まっている。キー局で始めた TVer もかなり視聴者に浸透している。そうした中で NHK の同時配信をめぐる動きも急速に進んでおり、民放事業者はどう対応していくのかという課題も生まれている。放送と通信、両面での技術革新が新しい課題をもたらし、非常に難しい時代が来るということを考えさせられた 1 年だった。

【出席者】

大久保好男 代表取締役 社長執行役員
中山良夫 取締役 執行役員 事業局長
福田博之 執行役員 編成局長

(了)